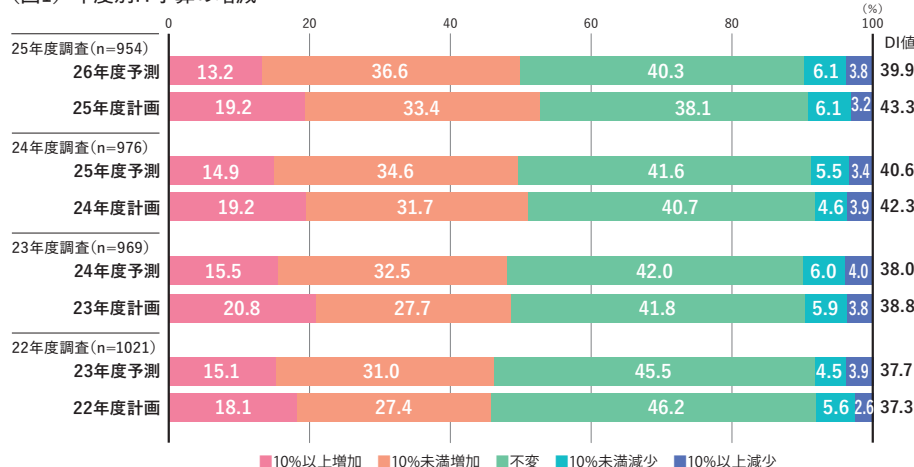


■ JUASが「企業IT動向調査2026」を発表

「企業IT動向調査」は、ITユーザー企業のIT動向を把握することを目的に、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）が1994年度から継続して実施している調査である。今回発表された「企業IT動向調査2026」は、2025年9月から10月にかけて、東証上場企業およびそれに準じる企業4,500社を対象に実施され、957社より回答を得て集計された。

今回の調査は「人とAIで未来を創る、新時代のIT部門像」をテーマとし、生成AIをはじめとする新たなテクノロジーの活用が進む中、IT部門やIT人材に求められる役割の変化を明らかにする内容となった。

（図1）年度別IT予算の増減



出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「企業IT動向調査2026」

まず、経年調査しているIT予算の増減を見ると、2025年度も多くの企業で増加傾向が続いている。2025年度計画において、IT予算が前年度より「増加した」と回答した企業は全体の52.6%に達した。増加割合から減少割合を差し引いた指標（DI値）は43.3ポイントとなり、5年連続で上昇。計画値としては過去10年間で最高値となった。2026年度予測も39.9ポイントと高水準を維持しており、IT投資の拡大基調は今後も続く見通しである（図1）。

IT予算の増加理由では、「既存システム・基盤の刷新・更新・増強」が66.3%で最も高く、「円安・人件費高騰・ベンダー提供価格の値上げ等の影響」「クラウドサービス増加」も上位に挙げた。さらに、今回から選択肢に加わった「AI関連の投資・利用料増加」は、2026年度の

IT予算増加理由として43.7%に達しており、AI活用への投資意欲の高さがうかがえる。

こうした投資の背景には、ITを使って解決したい経営課題の変化もある。現在直面している経営課題では、「業務プロセスの効率化・スピードアップ」が最も多く、IT投資はシステム維持のためだけでなく、業務変革や価値創出を進める手段として位置付けられつつある。

Better begins here.

あたりまえの毎日が、よりよいものであるように。
三菱電機は世の中を支え続け、変え続ける。
社会をもっとポジティブに、心をもっとポジティブに。
もっといい毎日を、ここから。



**MITSUBISHI
ELECTRIC**
Changes for the Better



生成AIの導入も着実に進んでいる。新規テクノロジーの導入状況において、「言語系生成AI」を「導入済み」と回答した企業は33.9%、「試験導入中・導入準備中」を含めると53.4%に達した（図2）。特に売上高1兆円以

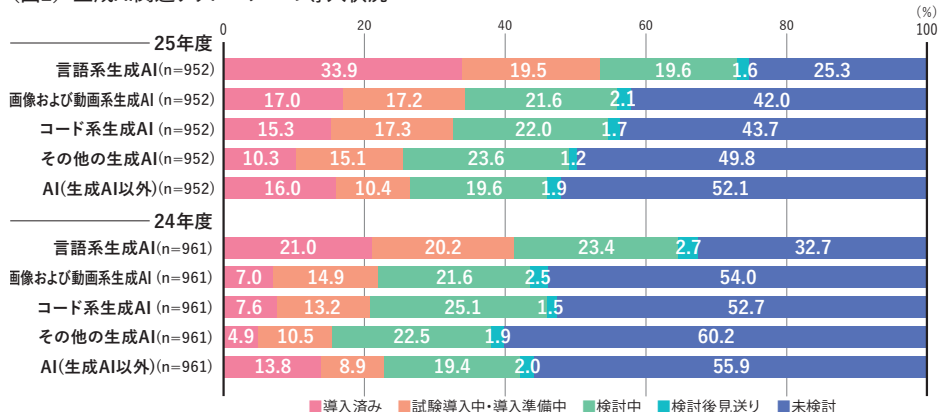
上の企業では「導入済み」が85.1%となり、すでに業務における主要なツールとして定着しつつあることがうかがえる（図3）。また、画像および動画系生成AI、コード系生成AIも前年度から大きく伸び、活用領域はテキ

スト処理にとどまらず、開発・クリエイティブ領域へと広がっている。

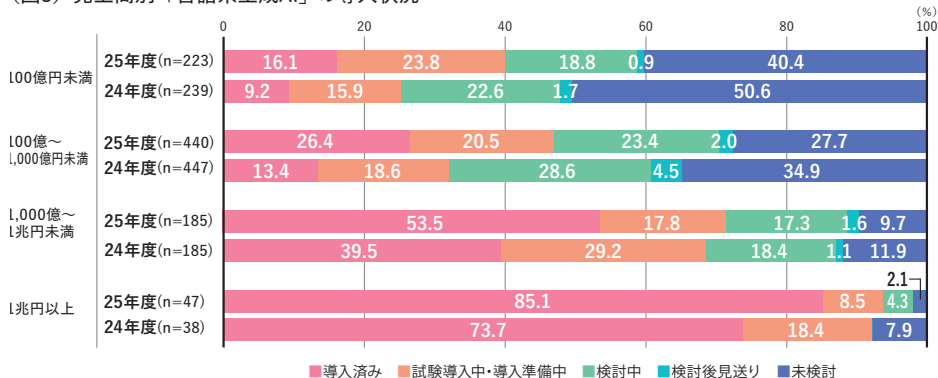
さらに注目されるのが、自律的にタスクを実行する「AIエージェント」への関心である。今回の調査で新たに選択肢に追加したところ、導入を「検討中」と回答した企業が31.2%と最も高く、生産性向上や人材不足解消への期待が表れている。

DXの浸透と生成AIの普及が進む中、IT部門には、単なるシステムの構築・運用にとどまらず、経営と現場をつなぎ、変革を推進する戦略的な機能としての役割が求められている。今後、企業競争力を高める上では、人とAIの力を組み合わせ、IT投資をいかに実効性ある価値へつなげていけるかが重要になる。

（図2）生成AI関連テクノロジーの導入状況



（図3）売上高別「言語系生成AI」の導入状況



（図2～3）出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「企業IT動向調査2026」



持続可能な世界に向けた
サステナビリティ・
トランスフォーメーション



